

ひこざ便

No. 41

2020. 1月 特定非営利活動法人 無料塾ひこざ

新しい年を迎えて

「無料塾ひこざ」をはじめから丸5年となる新しい年を迎えました。多くの方々の途切れることのないご支援でここまで来れたことに心から感謝したいと思います。

2020年、今年はどうなるのでしょうか？

変化の激しい複雑で解決の道も定まらない時代ですが、去年は、社会のさまざまな所で理不尽なことに対して声を上げ続ける人もふえてきました。教育の分野でも、無意味とも思えるブラック校則の見直しを求めたり、忙しすぎて生徒と向き合えない先生方の働き方を見直す必要の声など……。はじめは小さなつづやきであっても少しずつ共感する人たちに広がってゆくことを実感しています。

私は昨年、おもしろい本に出会いました。『読みたい心に火をつけろ』（木下通子著、岩波ジュニア新書）です。著者は長く春日部高校など県立高校の司書をつとめられている方です。埼玉県は県立高校の学校図書館すべてに専任の司書が配属されていること、司書は人と本をつなぐことがしごとなので、いつも生徒に声をかけ、高校生の好きなコミックや雑誌も用意、エアコンのきいた図書館は生徒たちのくつろぎの場所になっている様子など、はじめて知ることが多かったのです。私は孫が小学生だった頃、学校開放日に授業参観したあと、図書室がとなりにあったので、のぞいたところ、司書の方がいらしたので、お話を聞きました。パート勤務なので週に何時間だけ開くそうです。本も偉人伝のような古い本が並んでいて魅力的な新しい本は少ないと感じたことを思いだし、専任の司書のいるこの県立学校図書館の充実ぶりや司書の活動の見事さにおどろきました。「ビブリオバトルの取り組みと広がり」や「本の購入予算」のことなど、もっと知りたいことも多く「百聞は一見に如かず」なので、今年は許されるなら近くの県立高校の図書館を見学したいと思います。

予測もつかない程、速く複雑に変化してゆくこの世界にあって、明日に向かって生きてゆくひこざの塾生も含め、すべての子どもたちが、成功や失敗をくり返しながらか、しっかりと生きてゆけるよう、自分にとって大切な一冊の本にめぐり合う機会がふえるといいなと思います。

代表理事 角田 眞喜子

お知らせ

★ (1) 3学期

3学期が始まりました。現在、中学3年生は8人です。それぞれ志望校も決まり、受験を目前に頑張っています。スタッフ一同、「サクラ咲く春」を待ち望んでいます。

無料塾「ひこざ」：〒338-0825 さいたま市桜区下大久保816（埼玉大学前）

Tel 080-4717-1535（火・金の16:00~20:00のみ）

Mail hikoza0203@gmail.com

HP 無料塾ひこざ.jp

Facebook QR



ひこざらいん

☆ 12月24日に忘年会という事で鍋パーティーを行いました。

炊飯器が使えなかった為、急遽鍋でご飯を炊くというアクシデントもありましたが、鍋自体は非常に美味しそうにできました。あまりにも美味しそうで写真を撮る前に食べてしまいました。

お米・野菜を提供して下さった榎本さん、ありがとうございました！

途中には、みんなで鍋をつつきながらビンゴもしました。白石さんと伏本くんが用意してくれた景品は中身が見えないように包装されていて、何が入っているかわからないドキドキワクワクのビンゴ大会でした。



鍋も食べ終わり、12月24日という事で最後はクリスマスらしくケーキを食べました。「むすび」さんのケーキはすごく美味しかったです！



多くの人に協力していただいて、忘年会は楽しく終えることができました。今後も学生同士の交流も増やしていけたらいいなと思います。（住沢）

「ひこざ」支援ネット

☆ こんにちは！教育学部2年生の渡辺智美です。

「ひこざ」では「ともみん」と呼ばれています。

中学校3年間ソフトテニスをしていて、今も大学のソフトテニスサークルに所属しています。話を聞くこともすることもすごく好きなので、「ひこざ」では勉強を教えるだけでなく、いろんな人と色々な話ができればいいなと思っています。プーさんがすごく好きなのでプーさん好きの人はぜひ話しかけてください！

英語話せればいろんな人と話せると思い教育の英語分野に入りましたが、喋れるわけではないです。が、英語は好きなのでわからないことがあったら、ぜひ聞いてください！私も全力で調べて一緒に考えます！
よろしくをお願いします。

教育学部2年 渡辺智美



「温かいスープ」

3か月前から金曜日の遅番スタッフを担当しています。子どもたちが帰ったあとの学生さんのミーティングや軽食に立ちあっています。

寒くなってきて「温かいみそ汁があったらいいのに」と思うようになり、「ひこざ」の台所で作ることにしました。さっそく、次の金曜日に味噌、豆腐、えのき茸を持ってきて作りました。「美味しい」「美味しい」と好評でみそ汁は完食されました。

3回目に、玉ねぎと卵のコンソメスープをつくったところ大好評でした。若い人はスープのほうがいいのかなと思いました。

量を間違えて多く作ったりしても全部完食してくれます。特に冬は暖かいのがごちそうだと思います。ある学生さんが「いつも、美味しいお味噌汁をありがとうございます。」と言ってくれました。

生野菜も食べてほしくて、キャベツを千切りにしたのを、毎回もってきています。マヨネーズ、ポン酢ドレッシングを常備しています。これもいつも完食してくれます。

学生さんが美味しそうに食べてくれるのが嬉しいです。

「ひこざ」スタッフ 佐々木 ミサ子



発達障害の子の学習に、合理的配慮を

現在小学1年生の孫は発達障害があり特別支援学級で学んでいる。読むことは問題ないが、書くことが苦手だ。特に、決まったところに字を書き入れるに多大な困難を伴う。

脚が不自由な人が車いすを使用するように、書くことの困難はタブレットやパソコンを利用することで解決できるのと思う。発達障害のある子に学校が「合理的配慮」をすることが義務づけられている（障害者差別解消法、2016年4月施行）が、残念ながら配慮の実現は進んでいるとはいえない。孫は手書きでの学習を頑張っているが、「書く」困難が「学ぶ」楽しさを奪わないかと心配になる。

2018年に始まった「一般社団法人読み書き配慮」の活動に注目している。学校で「合理的な配慮」を受け、学習困難を解決した事例を伝え合い、蓄積し公開する活動だ。目標は、「合理的な配慮」があたりまえのこととしてがいきわたり、本質の学びを保障することにある。代表の菊田さんの息子さんも「書く」困難があったが、タブレットで授業を受け、定期テストや高校入試をパソコンで受けたことで可能性が広がったとのこと。

「読み書き配慮」の活動は、孫に必要な配慮を考える参考になるだけでなく、学校に配慮を要求するときの「前例」という強い味方になる。孫がタブレットやパソコンを駆使して、学習したり、自由に自己表現したりする日がきてほしい。 スタッフ 雛元

「合理的配慮」とは？

障害のある人が他の人と平等に暮らすために、周囲の人や学校、会社などが無理のない範囲で行うべき①支援や②ルールの変更、③環境の調整。例えば、①見えない人に声で文字情報を伝える、②音に敏感な子どもに教室でヘッドフォンの着用を認める、③車いすの人のために動線を広くする…など。



中央ろうきん助成プログラム

医療生協さいたま



ご支援ありがとうございます。

編集後記

- ❖ 昨年8月に刊行した書籍『子どもが元気になる無料塾—地域型無料塾「ひこざ」の魔法力』が点訳された。埼玉県点訳研究会で活動されている知人 A さんのご厚意による。会員の M さんに早く届けたい。(雛)